

平成27年度「逗子市学習状況調査」の分析結果(小学校)

〇はじめに

平成27年4月21日に「逗子市学習状況調査」が行われました。この調査は、逗子市の児童の学習状況を把握・分析し、各学校の指導方法の工夫・改善および児童の学習に役立て、市として必要な施策の策定に資するために行われたものです。実施内容は、市内小学校5年生を対象とし、国語、社会、算数、理科の4教科で、神奈川県調査問題をもとに行われました。この分析結果を踏まえ、各学校において今後の指導方法の工夫と改善を図り、本市において教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るよう努めたいと思います。

なお、ここでの学力とはこの調査で測ることができた学力の一部であり、子どもたちのもつ学力全てを示すものではありません。

〇実施状況

- | | |
|----------------|-----------------------|
| (1)調査実施日 | 平成27年4月21日(火) |
| (2)実施教科 | 教科に関する調査(国語、社会、算数、理科) |
| (3)実施学校・学年・調査数 | 逗子市立小学校5年生 443名 |

〇逗子市調査結果の概要(小学5年生)

各教科の調査結果について以下に示す。正答率では、社会が最もよく81.2%と高い数値を示している。国語、社会では、それぞれ71.6%、73.4%と約7割となっており、理科について63.9%と最も低い数値となっている。

表 各教科の調査結果(正答率)

教科	調査児童数	平均正答率
国語	441名	71.6%
社会	441名	81.2%
算数	442名	73.4%
理科	443名	63.9%

国語

- ・国語は、調査児童数441人にて実施をした。その結果、平均正答数19.3問、平均正答率が71.6%、平均正答率が60%以上の児童は全体の7割以上を占めていることから、児童に対して学習内容が概ね定着していると考えられる。
- ・観点別の平均正答率については、「書く能力」(4設問)が67.3%、「読む能力」(7設問)が67.6%、「言語についての知識・理解・技能」(20設問)が74.0%と概ね良好な結果となっている。
- ・「書く能力」の各設問について平均正答率を見ると、『敬体と常体の違いの把握』の『番号』に関する問題が94.6%と多くの児童に理解されている(問三(1))。一方、『文章中の事例部分の記述』に関する問題では33.6%となっており、書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書く能力を苦手とする児童が多いことがわかる(問三(3))。
- ・「読む能力」については、『擬態語の補充』が92.1%と高い正答率となっている(問二(1))。一方、『登場人物の心情の把握』については54.9%となっており、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて叙述を基に想像して読む能力を苦手とする児童が多いことがわかる(問二(5))。
- ・「言語についての知識・理解・技能」については、『漢字の読み』が93.4%以上とそれぞれ高い正答率となっている(問一(1))。一方、『ローマ字の書き』が24.9%と低く(『ローマ字の読み』は50%以上)、ローマ字の読みについては良いが書くことに対して苦手としている児童が多いことがわかる(問二(6))。

調査結果を踏まえた指導の工夫・改善

書く能力について	○書いたものを発表しあって、自分の考えを持ったり、書き手の表現の仕方をよりよくするために助言をしたりする交流の場面を設定してみましょう。交流をする際には、児童相互に具体的な助言ができるよう、指導事項と関連させて、観点を明確に提示することが必要です。(問三(3))
読む能力について	○授業では、物語を読み、登場する人物像を捉えた後に、登場人物同士のかかわり合いを叙述を基に捉え、関係図に表すなどして説明し合う学習活動等が考えられます。(問二(5))
言語についての知識・理解・技能について	○児童が慣用句等の意味を理解し習得するために、継続的に国語辞典を活用する場面を作るよう心がけましょう。また、それらを日常生活の適切な場面で使うようにし、説明や報告のスピーチ、日記などの中で、自分の表現として生かすことを意識させることも大切です。(問一(3)) ○地名や人名などの固有名詞を含めた簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、またローマ字を使って書く場面を意識的に作るようにしましょう。(問二(6))

社会

- ・社会は、調査児童数441人にて実施をした。その結果、平均正答数27.6問、平均正答率が81.2%、平均正答率が60%以上の児童は全体の9割以上を占めていることから、児童に対して学習内容が概ね定着していると考えられる。
- ・観点別の平均正答率については、「社会的な思考・判断・表現」(16設問)が79.1%、「観察・資料活用の技能」(7設問)が80.4%、「社会的事象についての知識・理解」(11設問)が84.7%と概ね良好な結果となっている。
- ・「社会的な思考・判断・表現」の各設問について平均正答率を見ると、『地域の人々の生産や販売』に関する問題が97.5%と多くの児童に理解されている(問二(1)(ア))。一方、『飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理』に関する問題の一部では43.1%となっており、話の内容から必要な事柄について読み取り、適切に判断することに対して、それを苦手とする児童が多いことがわかる(問六(2)(ウ))。
- ・「観察・資料活用の技能について」については、『方位・主な地図記号』の『地域についての説明』が92.7%と高い正答率となっている(問一(4))。一方、同じ問題の『方位の読み取り』については56.7%となっており、地図上の2つ対象の位置を判断し、そこから方位を読み取ることを苦手とする児童が多いことがわかる(問一(2))。
- ・「社会的事象についての知識・理解」については、『飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理』が93.4%以上とそれぞれ高い正答率となっている(問四(1))。一方、『県(都、道、府)の特色』の『北海道』以外が51.2~65.5%と比較的低く(『北海道』は92.3%)、都道府県の名称と位置について地図上で指摘することに対して苦手としている児童が多いことがわかる(問八)。

観点別にみた指導の工夫・改善

社会的な思考・判断・表現について	○飲料水を供給する仕事に携わる人々から消費地に供給されるまでの対策や事業について話を聞いたり、浄水場などの施設を見学したりして具体的に調べる活動を取り入れましょう。家庭や学校、公共施設、会社や工場などで取り組んでいる節水のための工夫や努力を取り上げるなどして、資源には限りがあること、無駄な使い方を見直し有効に利用することに気づき、自らも節水に協力しようとする態度を育てるようにしましょう。(問六(2))
観察・資料活用の技能について	○地図記号を取り上げる際には、身近な地域の様子を地図に表したり、地図から市町村の様子を読み取ったりして、地図記号のもつ意味について触れるようにしましょう。また、方位については実際の方位を教室に掲示する等、常に意識できるように指導しましょう(問一(2))
社会的事象についての知識・理解について	○5年生の段階では、農業や水産業、工業の盛んな地域や運輸の働き、我が国の地形や気候の概要などの学習において、そこで登場する都道府県の名称と位置を児童自ら地図帳を活用して日本地図で確認したり、白地図に整理したりするなどの活動を繰り返し行いましょう。また、社会科の学習以外の場面でも、日常的に地図帳で各都道府県の名称と位置を確認する習慣を身に付けさせることが有効です。都道府県を表す地図を教室に常に掲示し、その活用を図るなど、教室環境を工夫した継続的な指導に努めましょう。(問八)

算数

- ・算数は、調査児童数442人にて実施をした。その結果、平均正答数18.4問、平均正答率が73.6%、平均正答率が60%以上の児童は全体の約8割を占めていることから、児童に対して学習内容が概ね定着していると考えられる。
- ・観点別の平均正答率については、「数学的な考え方」(6設問)が69.8%、「数量や図形などについての技能」(14設問)が75.0%、「数量や図形などについての知識・理解」(5設問)が73.1%と概ね良好な結果となっている。
- ・「数学的な考え方」の各設問について平均正答率を見ると、『面積』に関する問題が86.2%と多くの児童に理解されている(問三(3))。一方、『伴って変わる2つの数量の関係』に関する問題では47.5%となっており、2つの折れ線グラフからそこに記載されている数値を読み取り、その特徴を考えることを苦手とする児童が多いことがわかる(問四(1))。
- ・「数量や図形などについての技能」については、『分数の減法』に関する問題が95.7%と多くの児童に理解されている(問一(1))。一方、『面積の単位』に関する問題では18.3%となっており、長さの単位の異なる縦・横での面積の算出を苦手とする児童が多いことがわかる(問三(1))。
- ・「数量や図形などについての知識・理解」については、『資料の分類整理』が86.4%と高い正答率となっている(問四(2))。一方、『四角形の対角線』が40.7%と比較的低く、四角形の対角線の意味や直線の垂直の関係について十分に理解ができていない児童が多いことがわかる(問七(2))。

観点別にみた指導の工夫・改善

数学的な考え方について	<p>○グラフからある数値を読み取るだけでなく、ある区間や部分に着目し合う場を設定することが考えられます。(問四(1))</p> <p>○正方形の並べ方と周りの長さの関係を表にするなど、視覚的にわかるように配慮し、2つの数の関係を見続ける活動を大切にしましょう。その上で、その関係を□や△、○を使った式に表すなど、児童の思考に沿って理解が深まるようにしましょう。(問五(2))</p>
数量や図形などについての技能について	<p>○身の回りにあるものの面積を実際に測定する活動を取り入れ、面積を求めたり、様々な場面で単位を用いたりすることを通して、単位の大きさや面積の求め方について、実感を伴ってより確実に理解が深められるようにしましょう。(問三(1))</p> <p>○落ちや重なりがないようにするには、資料の読み飛ばしのないように順序良く数えること、あらかじめ起こり得る場合を整理すること、重複して数えることがないように数えた資料に色やしるしを付けることなど、間違いをなくす方法を具体的に指導しましょう。(問四(2)イ)</p>
数量や図形などについての知識・理解について	<p>○実際に四角形やその対角線を描く活動を通して、辺の長さや対角線の性質を調べたり、平行四辺形、ひし形、台形で平面を敷き詰めた時に同じ大きさの角や平行線の性質に気づいたりするなど、実感的な理解を深める指導をしましょう。(問七(2))</p>

理科

- ・理科は、調査児童数443人にて実施をした。その結果、平均正答数16.0問、平均正答率が63.9%、平均正答率が60%以上の児童は全体の約6割を占めていることから、児童に対して学習内容が概ね定着していると考えられる。
- ・観点別の平均正答率については、「科学的な思考・表現」(7設問)が49.2%、「観察・実験の技能」(3設問)が27.0%、「自然事象についての知識・理解」(15設問)が78.1%と一部を除き、概ね良好な結果となっている。
- ・「科学的な思考・表現」の各設問について平均正答率を見ると、『天気による1日の気温の変化の仕方』に関する問題が77.2%と多くの児童に理解されている(問五(1))。一方、『空気の性質』に関する問題では6.3%となっており、空気の体積や圧力に関する性質(空気の体積変化と押し返す力)への理解が不足している児童が多いことがわかる(問四(1))。
- ・「観察・実験の技能」については、全体的に正答率が低く、『乾電池のつなぎ方と電気の働き』に関する問題では18.5%となっており、乾電池とモータをつなぐ方法について回路図で表現するという点を苦手とする児童が多いことがわかる(問四(2)(ア))。
- ・「自然事象についての知識・理解」については、『観察カード』がそれぞれ96%以上と高い正答率となっている(問二(1))。一方、『沸騰 水蒸気』が29.1%と低く、水が温度によって水蒸気に変わることに ついて、まだ十分に理解ができていない児童が多いことがわかる(問七(3))。

観点別にみた指導の工夫・改善

科学的な思考・表現について	○空気と水の性質を利用したおもちゃ作りに取り組んだり、タイヤの空気の役割や水鉄砲の仕組みなどについて考えたり、図や絵で表現し、説明させたりする活動が考えられます。(問一(2)) ○水蒸気や空気等の見えないものをイメージ化するために、図や言葉で表現する活動が考えられます。(問五(2))
観察・実験の技能について	○「直列つなぎ」と「並列つなぎ」の違いについては、回路図を書くとうわかりやすくなります。特に並列つなぎでは、見た目には違った回路に見えても、実際には同じ回路である場合もあるので、間違いやすいつなぎ方について確認しながら、学習が進められるようにしましょう。(問四(2)(ア)) ○方位磁針を正しく使えるように指導したうえで、月や星座の動きを観察させることが効果的です。(問八(2))
自然事象についての知識・理解について	○水は温度によって、固体、液体、気体に状態が変化することを、身近な現象と関連させて説明させることが効果的です。水が温められると水蒸気になり、冷やされると氷になる様子を絵や図で表現させる活動を取り入れます。やかんの注ぎ口付近の見えない部分にガラス棒などを当て、水滴がつくことを確認したり、沸騰した水の中から出てくる泡を集め、冷やすことで、この泡は空気ではなく水が変化したものであることを気づかせたりする活動が考えられます。(問七(3))